

俳句 むしとりの かげ見えかくれ 夏の原

6月16日(土)に「NPO専属スタッフ」として着任された磯田さんをご紹介します。また同日、上世屋の草刈り作業を行いました。今回は、その草刈り作業の参加者である磯田さんと、5月に行った田植えの参加者から感想をいただきました。

スタッフ自己紹介

NPO事務局スタッフ 磯田 有美恵

みなさま、はじめまして。NPOの事務局スタッフとしてお仕事をさせていただくことになった磯田有美恵



と申します。出身は奈良県奈良市。鹿と大仏に見守られて成長しました。現在は養老の岩ヶ鼻という地域に住まわせていただいて上世屋に通っています。大学2回生の時、世屋の隣にある波見^{はみ}という地域に出会い、それ以来すっかり丹後好きに。大学を卒業して昨年の春から1年間NPO法人地球デザインスクールで実習生として仕事をさせていただきました。もともとは「自然のことを人に伝えられる仕事が出れば…」という漠然とした気持ちで丹後にやってきましたが、こちらで暮らすようになって自分の無力さに気づかされるばかり。何も出来ない私が『自然』の事を伝えられるはずもなく、まずは自分も自然の中で生きられる人間になりたいと思うようになりました。それは畑を耕したり身近にある素材を知り活用する感覚やスキルをつけるということ。また一方で世屋地域のような農山村でいかに仕事を創り出せるかということだと思っています。

す。

事務局としてのお仕事は週3日ほどになりますが、週5-6日のペースで樺丹には出入りさせてもらっています。時間があるときにはぜひ樺丹に遊びに来てください。「あんなこと、こんなこと出来たらいいね」とこれまでのNPOの蓄積を形にしていったり、これからの活動について気楽に話していただける存在になればと思っています。知らないことだらけでご迷惑をおかけすることもあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

草刈り作業

NPO事務局スタッフ 磯田 有美恵

6月16日晴天の中、地元の方、『美しいふるさとを創る会』のみなさん、立命館大学『丹後村おこし開発チーム』のみなさんと一緒に総勢35名で上世屋集落の草刈り作業を行いました。場所は分校周辺と集落奥の棚田。学生さんは鎌で、その他は草刈り機を使って作業を行いました。



私にとって
は初出勤の日。
「どこを草刈
りするんや
ろ?」「何人く
らい集まるん
やろ?」「学生
さんとかみん



な元気いっぱいキラキラしてはるんやろな〜」等々
…不安と期待を胸にのぞんだ作業でしたが、草刈り機
の台数も多くみなさんが黙々と作業をしてくださった
おかげで2時間ほどですっかりきれいになりました。
草刈り機経験が浅い私は、足場が不安定な場所でもひ
よひよいと草刈り機を使いこなす手馴れた手つき
の方々にとただ見とれてしまいました。遠くから応
援に来てくれた学生さんたちは草茫々になった分校の
階段を苦戦しながらもきれいにしてくれました。樺丹
からの分校の眺めもすっきりして気持ちがよくなりました。

いよいよ梅雨をむかえ、どんだのびる草との格闘
の季節になりました。普段は街中に暮らす方にしたら
“草刈り”という一見地味そうに感じる作業かもしれ
ません。しかしこの地域に暮らす人にとってはとて
も大きく重要な仕事であることを少しでも感じてもら
う機会になっていれればと思いました。



棚田での田植えを体験して

京都府立大学 岩佐 匡展

5月26日に上世屋の棚田で、覚えている限りでは
人生初めての田植えを体験しました。

井之本さんに稲の苗の植え方を教わり、小川雅道さん
にお手伝いしていただきながら、見様見真似で上世屋
の棚田に稲を植えました。

当日は風が強く、黄砂の影響でか空はややかすんで
いました。田植え用の長靴に履き替え、田植えをする
棚田へ向かいました。今回の田植えでは、紙マルチシ
ートという生分解性のシートを田に敷き、植え穴をあ
け、そこへ等間隔に稲の苗を植えていく方法をとしま
した。紙マルチシートは炭が混ぜてある黒色の紙のマ
ルチング用のシートで、敷くことでしばらくの間雑草
が生えるのを防ぐ効果があります。

水田に入り、後退しながらロール状に巻かれたシー
トを少しずつ転がし田に敷いていき、そこへ指で小穴
をあけ、約25センチ間隔に苗を2、3本ずつ植えて
いきました。後ずさりしながら苗を植えていくので、
自分の足で土にあけた穴が苗を植え付ける場所と重な
ってしまう場合があります。そうすると、苗が十分に
土に触れることができず、根付きが悪くなります。水
田の中での足の運び方には少し気をつけないといけま
せませんでした。また、根付かず浮き上がってしまった苗
を植え付け後に植え直すことは、紙マルチシートを敷
いているために難しそうなので確実に植え付けていか
ないと、と思いました。棚田一枚一枚の形が地形に逆
らわず調和しているように見えて美しいのですが、そ
の棚田を紙マルチシートでしっかりと覆うためには、
ところどころでシートを継いだり切ったりする工夫が
必要でした。

とばかり書いていると、これを読まれている方は、
苦勞話に終始するようと思われるかもしれません。し



かし、途中でブユに刺されひどく腫れたことを除けば、実際には新鮮で面白い体験でした。

まず、田んぼに足を入れるときの緊張感と足に伝わってくる感触です。底が見えない田んぼに両足とも入れることは、僕にとってはなかなか良い意味で緊張することでした。「ヌヌヌ」と足が沈んでいき、底のような少し硬い層に行き当たると安心して少しくれしくなりました。膝下まである泥の中を動くというのはめったにしないことなので面白かったです。

苗を等間隔に植えているつもりでも、途中で顔を上げて植えてきた苗の列を見ると、やはり歪んでいることに気づきました。少し離れて一枚の棚田として見る

とその歪み具合はさらによくわかります。しかし、地形に沿った棚田の形と苗が並ぶ様子がいまって、まるで細かい等高線が描かれたようにも見え、これもまた一興ではないかと思いました。また、苗を植えている最中には、まめまめしく植物(稲)を手で植え付けている作業から、その植物が成長してできるお米という毎日よく噛んで食べている大量の粒を連想し、なんだか不思議に思いました。生きる糧を得るために、まさに今稲の苗を植えているというあまりに現実的なことを、空にひらけ風が吹き抜ける上世屋の棚田でしていたからそんなことを思ったのかもしれませんが。

なにはともあれ、植えた稲の苗がしっかりと根付い



て成長し、秋には稲穂を垂れ、上世屋の棚田の景観のほんの一部を担うようになってほしいです。

♪♪♪ お知らせ ♪♪♪

8月11日(土)に「世屋川の源流を歩こう」を行います。

上世屋集落の上流にある世屋川源流や湧き水を訪ねます。豊富で多様な水資源に恵まれた世屋の里の自然と文化に触れながら、世屋の水環境や水利用の特徴を学びます。(小雨決行)

- 日時：平成19年8月11日(土) 9:00~12:00
- 企画担当：梅本、三好、深町
- 集合場所：樺丹(上世屋バス停のそば)
- 持ち物：帽子、着替えなど

*参加費：300円

- **服装**：川に入れ、山も歩ける服装でおこしてください
- **問合せ先・申込先**：事務局（電話 0772-25-0015、e-mail : kura@iio-jozo.co.jp）まで。参加者は、**必ず事前（8月8日まで）にお申し込みをお願いします。**

■事務局からのお願い■

電話やネットが通じるようになりぶーたんが事務局らしくなってきました。そこで事務局としての機能を充実させるために会員みなさまにご協力いただきたいことがあります。今後、パンフレットやHPのリニューアルを考えています。みなさまがお持ちの写真の提供をお願いします。活動写真や世屋の風景などイチオシ写真をお待ちしています。

また、事務局の文具がほとんどそろっていない状態です。お家で眠っている事務用品があれば寄付していただけないでしょうか？

穴をあけるパンチやファイル、カッターマットなど「使えそう！」と思われるのものがあれば教えていただけると嬉しいです。（割り箸でない）お箸も大歓迎です。

ご協力、どうぞよろしくをお願いします。

■耳より情報!!!■

上世屋にお住まいの大江千代子さんの写真展が開催されます。ぜひ足をお運びください。

—丹後半島の秘境・上世屋の生活と風景—

千代さんと世屋の里丹後半島の秘境、上世屋。1930年代にタイムスリップしたような静かな山間の村。豪雪除けの三角屋根は日本農村の原風景を見るようです。そこに生活する大江千代子さんと世屋の四季風景を30点にまとめて展示します。ぜひご高覧下さい。

日時：2007年7月26日(木)～8月19日(日)

午前10時～午後7時（最終日～午後5時）

場所：さとう宮津店Mipple 4階

浜町ギャラリー

出展者：橘喜代子ほか

主催：但馬山岳写真会

■ぶーたんの電話／メールアドレスについて■

上世屋の拠点、通称「ぶーたん」で電話、FAX、メールが使用できるようになり、専属スタッフの磯田さんが対応してくれます。

電話／FAX 0772-47-3540

メール bhutan@mxe.nkansai.ne.jp

